

I
HATE
FAST
FASHION !
agnès b.

agnès b.

11 20
01 21

hello everybody !

I'm sad not to

----- etc... !

agnès

「みなさん、こんにちは！

私がいま、できなくて悲しいこと ...

....、、 etc...!」

あなたは？この状況で

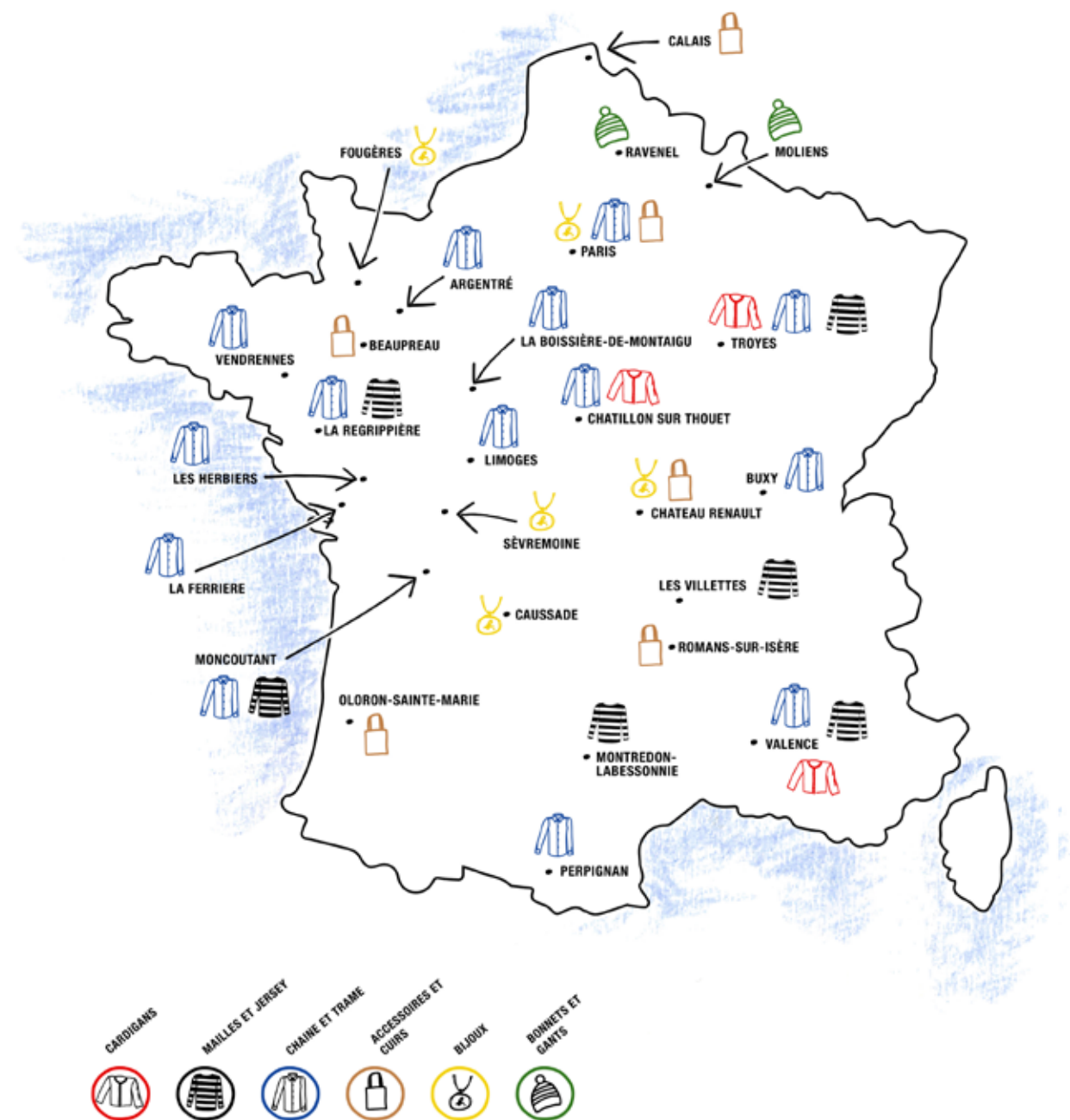
できなくて悲しいことは何ですか？

—アニエスベー

official instagram



agnès b. 
quelque part en France



--- fabriqué en France !

1975年のブランド設立以来、アニエスベーはコレクションをフランス国内のメーカーと共に生産してきました。美しい洋服を作る職人たちの伝統技術と歴史をブランドのものづくりと融合させることは当然の選択で、アニエスベーのスタイルと自然に共鳴しあい、彼らに対する愛着と誠意を表しています。

「Fabriqué en France "ファブリケアンフランス" (フランス製)とは、私が1975年にブランドを創設して以来支援してきた、フランスの技術そのものです。その技術が消失したり、村全体が失業してしまうような事態を避けるため、産業を活性化させ続けることが大切です。それはまたフランス文化の威光を外国に広める方法でもあります。

そのために、私は2010年9月、特定の商品に『フランス製』のネームタグを付けることにしました。私のコレクションの40%以上の製品は、フランス国内で生産することを目指しています。ある国の1分間の工賃は、フランスの70分の1です。しかし、多くの企業が、国内生産に戻すことによって、生産量を増やし価格を下げることに貢献できるのです。」

agnès b.

le cardigan pression

Troyes

トロワ

EMO工場

ジャージー素材のカーディガンプレッションの生産

カーディガンプレッション

EMOの生産責任者であるフランシス・ブレモンの手腕により、アニエスベーとEMOは一緒に成長してきました。70年代の終わりに、アニエスベーは2個のスーツケースにサンプルを詰め込んでトロワにやってきたとき、「下着を洋服として着ること」を望み、生産業者を探していました。アニエスベーの小ロットの生産リスクを負うことをどの業者も受け入れてくれなかったとき、当時EMOの社長であったドミニック・リガゾーニだけはアニエスベーの話を快く聞き入れたのでした。

それはアニエスベーのメゾンにとって歴史的な出会いとなりました。

彼はTransnitという機械を稼働しました。この環状織機はもともと下着を製造するためのものですが、アニエスベーがデザインした通り、縫い目がなく端がリブ編みで、一枚仕立ての非常に薄いカーディガンやセーターを生産することができたのです。現在、他の環状織機は取り壊されてしまったため、EMOは、端がリブ編みの生地を生産できる世界でも残り少ない業者の一つです。お互いの尊敬と信頼の上に成り立つ37年間のコラボレーションは、現在もドミニックの息子である、ジャン＝ドミニックと継続中です。

アニエスベーのコレクションの定番である端がリブ編みのニット生地や、カーディガンプレッションはEMOのアトリエで完成したのです。





agnès b.
fabriqué en france

le cardigan pressions for enfant

アニエスベー アンファンでは、アイコンニックアイテムであるカーディガンプレッションの一部商品をこれまでの中国産から、メイドインフランスに変更してお届けします。



croisière sur la Seine !



La Tour Eiffel



Le métro parisien



La Statue de la Liberté



les péniches



Pont Alexandre III et Grand Palais



Pont Mirabeau



Musée d'Orsay



La Cathédrale Notre-Dame de Paris



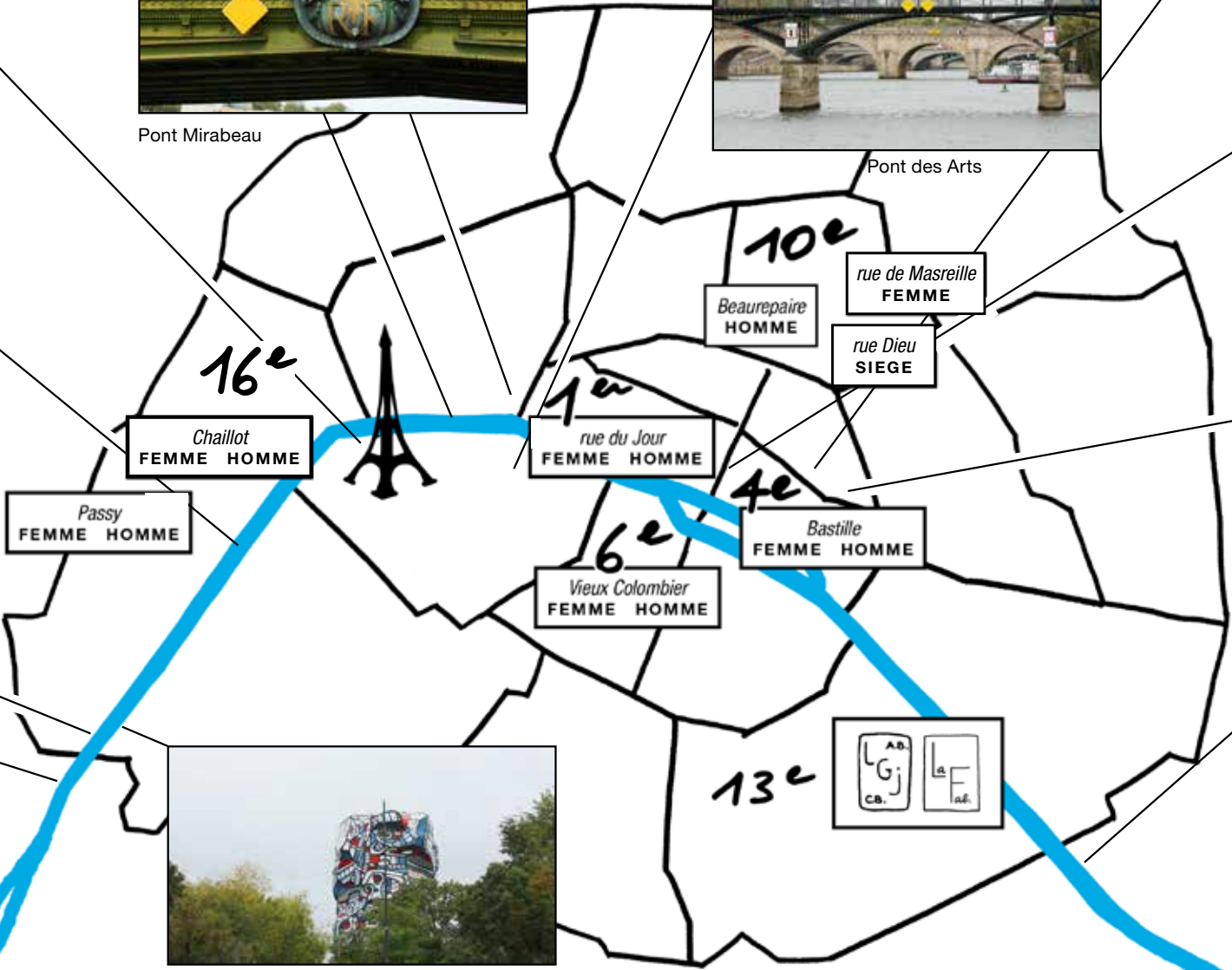
Le Louvre



Pont des Arts



Le Pont Neuf



Lusine Raphaël



la Tour aux figures de Jean Dubuffet



SUSTAINABLE PRODUCTS

アニエスベーのDNAには、「サステナビリティ(持続可能性)」がブランド立ち上げ当初から深く根付いています。アニエスベーらしい独自のスタイルで、社会貢献、環境活動などに取り組みつづけています。2021年春夏にラインアップする、サステナビリティに配慮してつくられた商品をご紹介します。



フランス産の天然素材の麻と、リサイクル可能な再生プラスチックから作られた素材を使用した "Plasticana(プラスチカーナ)"のブーツやサンダル



トゥービー バイ アニエスベー アイコンのスターモチーフやブランドロゴラインがスポーティーなニットのセットアップ、定番のカーディガンのデザインを取り入れたジップカーディガンは、回収された使用済みペットボトルを原料として作られたポリエステル繊維を使用。

sustainable products



リサイクルポリエステルを使用したバッグ



アニエスベーの洋服の残り生地をアップサイクルしたトートバッグ



2021年 タラ オセアンの主な活動

タラ号は、2020 年 12 月 12 日に母港であるロリアン（フランス）を出港し、約 2 年間で南大西洋、南アメリカとアフリカ大陸の沿岸海域および南極までを航海して調査する、新たな大科学探査「ミッション マイクロバイオーム」を開始しました。海洋生態系の最も基礎である、海洋マイクロバイオーム（微生物叢）と、その未来を研究します。

日本では、Tara Océan 財団の日本事務局である TARA JAPAN が、全国の大学所属の臨海実験所、水産実験所の連携組織・JAMBIO(マリンバイオ共同推進機構、<http://jambio.jp>) と連携し、各実験所の調査船を使用して日本沿海岸域のマイクロプラスチック汚染の実態を調査する「Tara JAMBIO マイクロプラスチック共同調査」を開始しました。2020 年秋には、西日本の 7 つの実験所と共同調査を実施。2021 年 5 月より、東日本、北日本を中心に調査を再開する予定です。

香川県三豊市の「アートと環境の島」栗島にある栗島海洋記念館では、「Tara JAMBIO マイクロプラスチック共同調査報告展」を開催し、昨年 10 月から 11 月に行った海洋調査に同行した、アーティスト 8 組 9 人の作品を紹介する予定です。



私の愛するタラ号！恋しいけれど・・・
あなたは私の情熱、誇り、喜び、共有の象徴、そして愛
—アニエスベ



タラ号ポスターコンクール 2021

昨年に引き続き、今年も「アートと科学の融合」という Tara Océan 財団ならではの視点を活かし、日本での活動をより広く知って頂き、地球環境問題へ日本のこども達により関心をもってもらう事を目指して "タラ号ポスターコンクール" を開催します。「マイクロプラスチックを減らすため、明日から自分がやろうと思う事」をテーマに、自由なデザインでタラ号のポスターを制作してください。

応募方法等の詳細は、公式サイトにて公開します。https://www.agnesb.co.jp/brand/news/tara_poster_concours2021/

応募資格：小学 1 年生から 6 年生の児童とその保護者。

下記 2 つのうち、いずれかのアカウント (自身の作品を応募するメディア) をフォローする。

Instagram / @ fondationtaraocéan_japan Twitter / @TaraOcean_JP

募集期間：2021 年 3 月 29 日 (月) - 6 月 13 日 (日)

STEP 1 : オンライン上の特設ページから応募フォーマットをダウンロード

STEP 2 : 制作したポスターの写真を撮り # をつけて、上記でフォローしたメディアに投稿

タラ号ポスターコンクール 2021 # アニエスベアンファン #agnesb

タラ号活動支援・日本語寄付ページをリニューアル

この度、Tara Océan 財団の、海を守り、そして私たちの未来を守る活動をご支援いただける、日本語寄付ページをリニューアルしました。今まではペイパル支払いで、単発のご支援のみが可能でしたが、クレジットカード払いおよび、継続的（毎月、年 2 回、毎年）なご支援が可能になりました。ご自分のお誕生日や、地球の未来を担うお子様のお誕生日など、大切な記念日に、この美しい海や、地球を守る事に心を寄せて頂くのはいかがでしょうか？

タラ号の活動は、皆様からのご支援で成り立っています。私たちの呼吸に必要な酸素の半分以上を作っている海をより理解し、保護するための寄付金をタラ号公式サイトより受け付けています。アニエスベはこれからも引き続き、この活動にコミットしていきます。ご賛同下さる皆さまからのご支援に心より御礼申し上げます。

give love!



タラ号は、新しいミッションに
出発しました。
海の見えない住人をより良く理解し、
私たちの未来を守るために。

Mission
Microbiomes

dear chet baker ♡



--- habillé



et moi' Bruce weber



photos © Bruce Weber and William Claxton

"LET'S GET LOST"
a film by Bruce weber
1988



dans le film



par



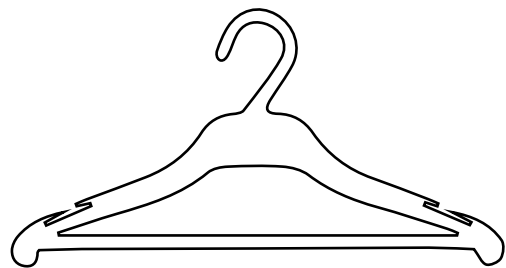
!!
moi'
agustus 2009



再生可能エネルギーは、CO2を排出せず、枯渇しない資源を利用して作られている地球にやさしいエネルギー。アニエスベーでは渋谷店に

100%

再生可能エネルギーを導入しています。



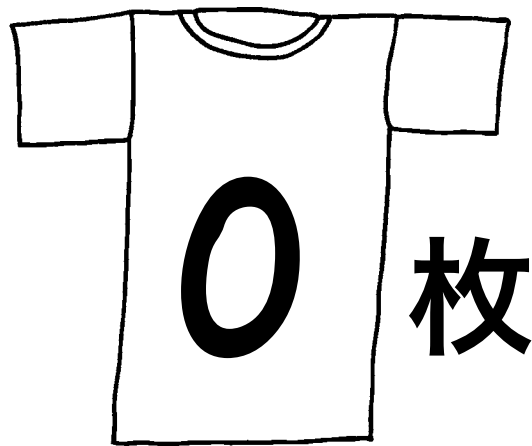
通常の商品をお店まで運んだあと、捨てられてしまうプラスチックハンガー。回収して洗浄、そして再利用するハンガーを2020年は

10,000本

利用しました。将来的には全てのハンガーを切り替える予定です。



アパレル企業の衣類の廃棄は世界中で大きな問題になっています。アニエスベーでは2020年、修理不可能な不良品を除き（全体の生産量のうち0.0004%）、廃棄した衣類は



でした。今後も衣類廃棄ゼロを目指して取り組みます。



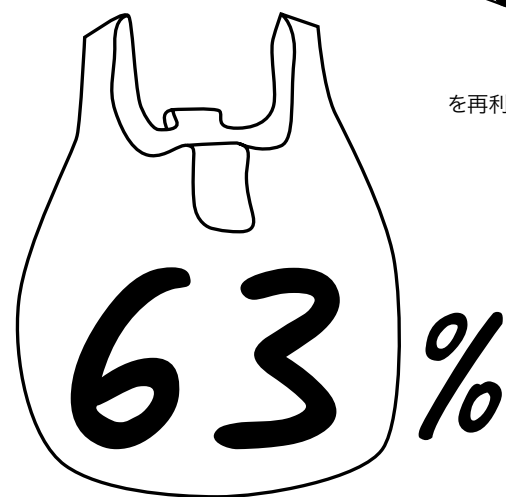
FSC認証は持続可能な森林活用・保全を目的とする制度。2020年10～12月に配布されたアニエスベーの印刷物のうち、全体の

81%

の種類の印刷物に、FSC認証の用紙を使用しました。

engagés 
--- depuis
longtemps! 

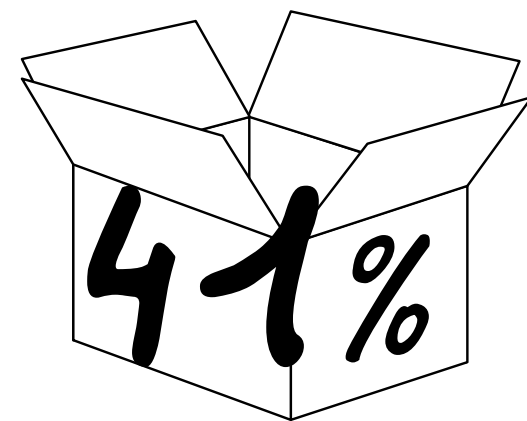
商品を入れるビニール袋の使用を見直して、使用量を減らしたり、まだまだ使えるビニール袋を再利用しています。2020年は前年と比較して、アニエスベーのショップと倉庫で使用するビニール袋の数を



削減しました。



紙は私たちの大切な資源です。アニエスベーは紙の使用量を減らすことにも力を入れています。2020年サプライヤーから倉庫に送られてくる段ボール箱の



を再利用しました。

SUSTAINABILITY B.GREEN





ENFANT CONCEPT STORE

大丸札幌店 new open

アニエスベー アンファンは、アニエスベーの定番アイテムに加え、オリジナルプリントなど遊び心のあるデザインで動きやすい洋服を展開するキッズラインです。アニエスベーは子どもたちの「世界を変えたい」という気持ちをサポートするため、子ども服をつくり続けています。大丸札幌の新店舗では、地球の将来を考えるきっかけをつくる「サステナビリティコーナー」を設置。ご家族でお楽しみいただけるスポットとなっています。



日本の海岸に捨てられているプラスチックごみは様々。地球環境を守りましようと言うメッセージが込められています。

agnès b.



agnès b.

5 days in Moscou in 1987

PHOTOGRAPHY

January 15th - March 14th

agnès b.

パリ - モスクワ 7月12日

イリュージョン機にて

飛行機の中で、書くための紙がないのでトイレトペーパーに書いている。ファーストクラスで、初めは私一人だった。それから、金髪を後ろにきれいにセットした4人の上級公務員が搭乗してきた。彼らは淡いブルーと明るいグレーのとても清潔なテルガル素材の制服に身を包んでいた。透け感のあるシャツからは細い肩紐の肌着が見える。ネクタイには50年代風の色合いのアシンメトリーなデザインが施されている。

Paris Moscou 12 juillet
Ilyonovine
Il n'y a pas de papier pour écrire à bord -
ici et du PQ - en fait j'ai seule
d'abord - puis sont montés les hauts
fonctionnaires aux cheveux blonds, possi-
blement coiffés en arrière. Ils ont des costumes
très nets en tégale bleu d'acier, gris clair
leurs chemises transparentes laissent voir
le maillot de corps à petits pois - les
cravates sont ornées de dessins asymé-
triques dans des coloris des années 50.



ファッションマガジン『ELLE』にて、モスクワでの旅の記事が掲載

された当時の誌面。



アニエスベー ギャラリー プティックで、アニエスベーが1987年に旧ソビエト連邦の首都モスクワへ赴いた際に撮影した100点以上の作品を国内初公開する写真展 "5 days in Moscow in 1987"。

本展の作品が撮影される契機となった1987年、アニエスベーはELLE誌のためにソビエト連邦時代のモスクワへ5日間の旅をしました。アニエスベーの使命は、全く未知の人たち、そして困難な日常を送る国民の中に新しいファッション、新しいスタイル、新しいセンスを発見することでした。飾り気のない暗い色の洋服を着た人々を観察し、そして自分とは全くかけ離れた伝統を受け継いできた偉大なデザイナーたちに出会いました。けれどもこの旅程で、彼女は何よりも、様々な場所へ赴き、個人の記録用に写真を撮り始めたのです。1987年のソビエト連邦下のモスクワに住む人々の生活を感じ、シャッターを切ったアニエスベーがファインダー越しに見た世界を体感できる写真展です。

*現在は展示を終了しております。

J'AI ME LA PHOTOGRAPHIE !

histoires de point d'ironie

Mar.19.fri - May.20.thu

アニエスベー ギャラリー ブティックでは、アニエスベーが発行し世界中で無償配布されているアート紙"ポワンディロニー"をテーマにした展示Story of the Point d'ironie / ポワンディロニーの全てを開催します。

1997年にアニエスベーと現代美術家クリスチャン・ボルタンスキー、現代美術キュレーター ハンス=ウルリッヒ・オブリストの3人の間で交わされた会話をもとに誕生しました。現在、年に1~2回不定期で発行されています。各号でゲストアーティストが紙面を使って特別なアート作品を作り出します。ポワンディロニーはサイズや配布方法などもユニークな無料の定期刊行物で、"分散"というアイデアのもと、毎号10万部が、世界中のアニエスベーパー、美術館、ギャラリー、学校、カフェ、映画館など様々な場所で無償配布されています。

そもそもポワンディロニーとは、19世紀の終わりに フランス人作家のアルカンテール・ド・ブームによって考え出され、皮肉めいた内容を指し示すために、(感嘆符や疑問符と同じように)フレーズの最後に使われる記号の名称です。記号やロゴとしてのポワンディロニー (皮肉マーク) これはアートプロジェクトであると同時にアニエスベーにとってはブランドのロゴの一つでもあり、デザイナーのアニエスベーは文章にポワンディロニーをよく活用しています。ポワンディロニーは文章や言葉が意味する内容をユーモアに変換するツールでもあり、記号として持つ意味に多様性があります。アニエスベーの数多くの商品にも使用されているポワンディロニーは、その意味の枠組みを超えてブランドのアイコンの一つとして存在感を放っています。

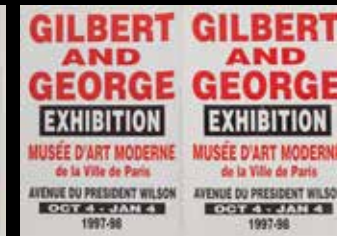
手に入れたら壁に貼ってみましょう。額に入れて飾ってみましょう。友人や家族にプレゼントするのもいいかもしれません。プレゼントを渡す包装紙にしてもいいかもしれません。そこにどのような価値を見出すかは人それぞれです。ポワンディロニーは受け取った人に対して無限の可能性を与え、発想することの重要性を提示しているのです。



0 Jonas Mekas



1 Joseph Grigely



2 Gilbert & George



4 Marlène Streeruwitz



5 Annette Messenger



9 Gabriel Orozco



11 Hans-Peter Feldmann



12 Harmony korine



Frédéric Bruly-Bouabré



18 Rosemarie Trockel



21 Raymond Hains



25 Matthey Barney



31 Yoko Ono



34 Michel Foucault



39 Richard Prince



44 Hugues Reip & Melanie Counsell



45 Robert Crumb



50 Christian Boltanski



52 Etel Adnan



57 Agnès Varda

etc---

agnès b.
galerie boutique
Tokyo

agnès b. galerie boutique アニエスベー ギャラリー ブティック

営業時間: 13:30-18:30 (月曜定休)

住所: 東京都港区南青山 5-7-25 ラ・フルール南青山 2F

電話: 03-3406-6010





T. shirts
d'artistes!

John Giorno

アメリカ人で詩人、活動家、そしてパフォーマーであるジョン・ジョルノは1960年に詩の革命を起こしたことで有名となる。中でも、電話による詩のシステム『パイオブシーズ』『ダイヤル・ポエム』などが良く知られている。彼はサウンド・ポエトリーの先駆者で、パフォーマンスからスクリーンプリントのリトグラフ（ポエム・プリント）まで幅広く様々なメディアを探索した。また、アンディ・ウォーホルのアトリエ、『ファクトリー』の重要人物でもあり、ウィリアム・バロウズと共にアトリエ兼アパートに住んでいた。彼の人生と同じく、作品の中には、彼の挑発的な趣向が顕著だった。アメリカ人のロバート・ラウシェンバーグから彼が人生最後の20年間を共にしたスイス人彫刻家のウーゴ・ロンディーネまで、偉大なアーティストたちにインスピレーションを与えた。ジョン・ジョルノは2019年に82歳で逝去した。

David Douglas

1989年にコネチカットで生まれたアメリカ人アーティストのデビッド・ダグラスは、現在パリを拠点に活動中。彼の作品は、記憶と直感を介して共有された経験を題材とし、明るい色彩の『パッチワーク』スタイルで、人々とそれを取りまく環境の相関関係を表現している。彼は作品を通して、楽観的な感情や帰属の感覚を呼び起こす。絵画はデビッドがどのように人生をとらえているかの隠喩だ。表面に色を重ねていくプロセスの中で、想像上のもの（信念）が目に見えるもの（知識）となる。ハイチのポルトープランスでの2年間、デビッドは地中海の色鮮やかな芸術と生活に大きな影響を受けた。彼の作品は、ハイチ絵画の物語の版画とブードゥー教の旗、そして床屋の店先や乗合タクシー（『タブタブ』）に飾られた油絵からインスピレーションを得ている。島の訪問者であるデビッドにとって絵画は、それを用いてハイチの文化との関係を深める手段であり、同時にそこで得た美的なインスピレーションを表現する為のツールでもあった。

We Speak Hip Hop(e)

ダヴィッド・ボワソー＝シカルとヴィーナ・イリジェ、別名ヴード&ヴィーナは、2003年、パリ第8大学芸術学部の本チで出会った。以来、彼らはお互いに離れ難い存在となり、世界中を旅してあらゆる反逆者たちと出会ってきた。バンコクからダラムシャー、ベルリン、ダカールを経由し、反画一主義者で放浪者の二人のアーティストは、様々なジャンルのビデオドキュメンタリーやプロジェクトを制作してきた。彼らにとっての教祖はウラジーミル・ジャンクレヴィッチとレオ・フェレだ。タグを組み、インディペンデントでもあったヴード&ヴィーナは、ウィー・スピーク・ヒップ・ホ（ー）ップの名で長期にわたりアートプロジェクトを実現してきた。インタラクティブなプラットフォームであるwww.wespeakhiphop.comではレコードを通して、世界中からコミットしたラッパーたちの声を聞くことができる。今回アニエスベーはウィー・スピーク・ヒップ・ホッ（ー）プの作品を採用し、より良い世界に向けた希望のメッセージを込めたTシャツを作った。

Yan Morvan

2020年春、コロナが広がる中、医療関係者の支援のために開催したアート作品販売で、アニエスベーはヤン・モルヴァンのこの写真作品を購入した。数ヶ月後、アニエスベーはその作品を『la Fab.』での展覧会『Out of Frame and Landscapes』で展示。作品を購入してから展示するまでの間でアニエスベーはヤン・モルヴァンと出会い、彼はアニエスベーにこう話した。「この写真がとても好きだ。その輝きの中に未来がない。未来どころかこれと言った方向性もない。彼の二本指は特定の誰かに向けられたわけではないんだ。このパンクな若者は一日中ビールを飲みながら過ごして、みんなをうんざりさせているだけ。そして彼のキリング・ジョークのTシャツは悪くないね。1979年にはまだみんなの心にあったのはロックンロールで、それが見た目にも影響していたけれど、1981年にはもう少し洗練されたものに移行していた。ネオリベラリズムが、暴力的で反体制的な側面を排除しながら、階級差を浮き彫りにしたカウンター・カルチャーを懐柔しはじめていたんだ。」

On a dit Brexit, Série Anarchie au Royaume Uni, 1991-2019
©Yan Morvan courtesy galerie Sit Down

Jean-Baptiste Bruant

1961年生まれジャン＝バティスト・ブリュアンは、パフォーマンス、音の研究、振り付け、ビデオを連動しながら多方面にわたり作品を制作してきた。シークエンスとオーバーラップが、物理的な、そして音や視覚的な題材と相まって、時間と空間を広げ、見るものを知覚と新しい視点で予想外の深みへと連れていく。1991年以来、ジャン＝バティスト・ブリュアンはマリア・サンガロとコラボレーションし、『ブリュアン＆サンガロ』の名で制作やパフォーマンスを行なっている。彼はギャラリー デュ ジュールをはじめ、世界中の美術館、アートセンターやギャラリーで定期的に展示を行なっている。



アニエスベー財団・基金は、たくさんのアーティストが創造するプロジェクトをあらゆる過程で毎年支援しています。支援はプロジェクトのスタートだけでなくそれを公開するまでのレベルに及び、その目的は、アーティストの作品を一般の人々だけでなく専門家にも披露できるよう支援することでもあります。

アニエスベーは、"les amis des beaux arts"(レザミ・デ・ボザール[les amis(レザミ)とは友人や友達の意]) 賞を通して学生や卒業生などの若いアーティストたちの創作支援をサポートすることで、芸術における個の尊重を支援しています。この賞は彼女がフランスで有名なパリの美術学校であるl'École nationale supérieure des Beaux-Arts (エコール・デ・ボザール:国立高等美術学校) と共同で2007年に設立したものです。



Out of Frame & Landscapes

アニエスベーが所有する5000点以上のプライベートアートコレクションを公開するミュージアムスペースの新企画展 "Out of Frame & Landscapes"を開催中です。外した視線と風景という切り口で、前例のない自由に満ちた大きなコラージュのように展示を行うことで見事に様々な作品群を関連付けて新たな繋がりを表現しました。

11歳のアニエスベーは、ルーブル美術館に展示されていたティツィアーノ・ヴェチェッリオ作"手袋の男"の肖像画に恋をしました。視線を外し遠くを見つめ、観客である自身を見つめていないことで深く恋に落ちたのだと回想します。作品中の人物が視線を外すことでその先にどこか別の場所の可能性を示唆するのです。そのような特徴を持つ作品の多くはアニエスベーを衝き動かし、圧倒し、感動させます。

現代美術キュレーターであり評論家であるJean de Loisyは本展の序文でこう述べてました。
「アニエスベーのコレクションはまるでばやけた境界線や美的規範を浮かび上がらせる雲のように自由で力強い。幸いにも完璧でも完全でもないコレクションだが、それでも私たちが愛するコレクションなのだ。」





Photographie © The Anonymous Project

The Anonymous Project « This is England »

9 octobre 2020 —→ 21 novembre 2020

place Jean-Michel Basquiat, Paris 13^e - du mardi au samedi, 11h-19h - la-fab.com

The Anonymous Project - This is England -

ユニークなアマチュア写真を収集し保存するThe Anonymous Projectの展示
"This is England"では、英国を巡る感傷的な旅のコレクションの一部を展示
しました。様々な写真やインスタレーションを通じて何が英国人を特別で
異なったものになっているか、そんな疑問を投げかけています。



Photographie © Massimo Vitali

Massimo Vitali « New Normal »

9 octobre 2020 —→ 21 novembre 2020

place Jean-Michel Basquiat, Paris 13^e - du mardi au samedi, 11h-19h - la-fab.com

Massimo Vitali - New Normal -

イタリア出身の写真家 Massimo Vitaliの展示"New Normal"では、COVID-19
の影響でロックダウンをした後に作られた「新しい標準」を彼の作品の主題の
1つである"人口密度の高い環境"をビーチで観察し、その環境が正常であると
再証明しました。不思議なことに、友人と会い、海と太陽を最大限活用し、今週
の心配事を置き去りにする、そんな全てがまだそこにあったのです。



*"quelques cinéastes
et photographes américains
représentés par la galerie du jour"*

QUELQUES CINÉASTES ET PHOTOGRAPHES AMÉRICAINS

7名のアメリカ出身の写真家、アーティスト、映画監督の作品を発表するグループ展
です。参加アーティストはジャンルレスにKenneth Anger, Tim Barber, Olivia Bee,
Mark Cohen, Jonas Mekas, Chad Moore, Dash Snowといった新進気鋭の作家
から時代を代表する作家まで各ジャンルを代表する面々の作品が揃いました。




Kenneth Anger, L'été (Museum Tuller, 1972-81)

**KENNETH ANGER TIM BARBER
OLIVIA BEE MARK COHEN
JONAS MEKAS CHAD MOORE
DASH SNOW**

*"quelques cinéastes et photographes américains
représentés par la galerie du jour"*

19 février → 3 avril 2021

place Jean-Michel Basquiat, Paris 13^e - la-fab.com

galerie du jour agnès b.

アニエスベーのクリエイションにおいて、音楽は重要なインスピレーション源でアニエスベーの世界にとって欠かせないものです。デヴィッド・ボウイやパティ・スミスなどのロックスターから、フレンチポップ界やヒップホップの若手ラッパーまでアニエスベーの交友関係は幅広く、それらミュージシャンたちへの衣装提供はもとよりコラボレーションも数多く手がけています。



ALAN VEGA "MUTATOR"
SACRED BONES RECORDS

alanvega.bandcamp.com

アニエスベー公式サイトではアニエスベーがセレクトした多ジャンルにわたる音楽を聴くことができる『agnès b. RADIO』が2018 年秋よりローンチし、より多くのアニエスベーの音楽が発信されています。その世界観を表現するロゴにはアニエスベーからの "osez!" (挑戦!) 「自由な自分であることへの挑戦を！」というメッセージが。

on aime la musique !!

"音楽が大好き!!"



First album
FRONT 2 CADEAU
Antinote records

frontdecadeaux.bandcamp.com
© harrisson



César et Rosalie
PHILIPPE SARDE
bo du film de claude sautet

transversales.bandcamp.com



Monthly PLAYLIST
SECTION 26

section-26.fr



Rone & Friends
RONE
Versatile Records

rone-music.bandcamp.com



Monument Ordinaire
MANSFIELD TYA
Warriors records

mansfieldtya.bandcamp.com



Monthly Playlist
GUEST ARTIST

La fab

la-fab.com



Zwei
HEIMAT

TeenageMenopause Records

teenagemenopause.bandcamp.com



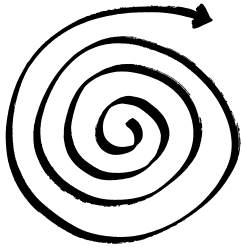
Afrique Victime
MDOU MOCTAR
Matadors Records

matadorrecords.com



25 th ANNIVERSARY
PLAYLIST ARTIST & LABEL
Versatile Records

versatilerecords.bandcamp.com



AGNÈS B. RADIO



www.agnesb.eu/la-maison-b-/radio/



**SIT IN MY
HEART
AND SMILE**

© John Giorno

agnès b. Japan Inc.

issue on march 2021